

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	観光型ホテル（経営者）	・2、3か月先の予約も既に入っており、今後売上が伸びる。
		設計事務所（所長）	・計画中の物件が着工になり、官公庁の入札が増えてくるので景気は良くなる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・市内中心部に新規マンション等の建設が進んでおり、住民も増えるため、来客数は増える。
		百貨店（営業担当）	・非常に上質感のある高級品が売れ始めており、確実にプラスになっていく。
		スーパー（店長）	・来客数は変わらないが、ハンドバックや時計、衣料品の高級ゾーンの売行きがかなり良くなっている。大きな売上である精肉が、BSEの影響でかなりの落ち込みがあったにもかかわらず、これをカバーできており、上昇傾向にある。
		スーパー（総務担当）	・前年を割り込んでいた衣料品や住居用品が、昨年並みもしくはそれ以上の売上を維持できるようになってきた。今まで買い控え等があった物が売れ始めている。
		コンビニ（エリア担当）	・周辺企業の一部業種で景気回復の動きが見られ、来客数が増えるなど売上アップの兆しが見られる。
		衣料品専門店（総務担当）	・新しいショップを立ち上げたが、予想以上に来客数が多い。客も目新しいものに期待している。
		家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送が始まれば、今以上のペースでテレビ等関連商品の売上が上がる。
		家電量販店（店員）	・販売チラシや新聞広告にかかる費用が大きくなっている。また、6月に開催されるサッカーのワールドカップに向けて大型のテレビやDVDレコーダーの動きが出てくる。
		家電量販店（企画担当）	・サッカーのワールドカップ開催により、テレビやデジカメ等の売上が期待できる。
		乗用車販売店（管理担当）	・新車だけでなく中古車販売、整備の方も今よりも良くなっていく。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・セルフスタンドの新規出店などが予定されており、設備投資が増える。
		旅行代理店（従業員）	・日並びの良いゴールデンウィークまでの出控えか、4月の出足は悪いが、ゴールデンウィーク以降は前年同期を超える。チャーター便が増えた影響で、特定の日に集中する傾向がある。
	ゴルフ場（従業員）	・県外客からの予約が多数入ってきている。5月は既に前年並みの予約数を確保できている。中央の客が社員旅行等で地方に出かけてくる傾向にある。	
	住宅販売会社（従業員）	・販売棟数が増加傾向にあり、展示場等でのイベントで来客数が増えている。	
	変わらない	商店街（代表者）	・中心商店街の来客数がかなり減ってきている。人の動きが大型商業施設やスーパー等に分散している。
		百貨店（営業担当）	・食品は前年並みとなったが、慶弔ギフトは前年割れとなった。一方で、生鮮品や呉服宝飾、美術画廊は好調となり二極化がより顕著になった。
		百貨店（営業担当）	・高所得者による高額消費は依然堅調なもの、足元を支える食品やボリュームゾーンの商品の動きは鈍く、未だ順調な回復基調とは言えない。
		百貨店（販売促進担当）	・売上、来客数の前年比マイナスの傾向は変わらず、今後の見通しは悪い。
百貨店（販売促進担当）		・個人消費の伸びが感じられず、セール等の仕掛けに頼らないと売上に結びつかない。	
百貨店（売場担当）		・競合店の大型商業複合施設はかなりの伸びを示している。百貨店業では、当社は結構善戦しているが、他社は厳しい。	
百貨店（業務担当）		・前年好調であったクールビズの反動減が考えられる。ヒット商品を予感させる商材もでてきておらず、販売量・売上が伸びる事は期待できない。	
スーパー（店長）		・今後も競合店の出店が続いていく。異業種が同じ食品を取り扱い、小さな店舗で数を打ち出してくるという状況下で、景況感は厳しい。	
スーパー（店長）		・新生活関連や卒業・入学等のイベント関連商品の動きは好調であるが、春物衣料等は厳しい状況である。	
スーパー（店長）		・石油製品の価格上昇と、ガソリン等の値上げによって、食料品の消費が落ち込む。	

		スーパー（店長）	・月曜日から水曜日までは前年並みに推移しているが、木曜日あたりから前年をクリアするのがやっとという感じになる。また土日の落ち込みはひどく、平日の企画催事等を強化しなければ、前年の厳しい状況が続く。
		スーパー（経理担当）	・4月～5月に競合店の出店が活発になり、更に競争が激化する。
		コンビニ（販売促進担当）	・販売量の動向としては、特売商品は順調に推移しているが、定番品の動きは鈍い。売上は前年比97～98%と横ばいで推移しており、このままの状況が続く。
		家電量販店（総務担当）	・金利上昇予測から、買い控えが広まる恐れがある。
		高級レストラン（経営者）	・法人関係の客は減少傾向であるが、個人客がやや持ち直してきた。トータルで見ると、あまり変わらない。
		高級レストラン（専務）	・競合店が増え、いい店だけが残っている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・個人催事である婚礼は順調に推移しているが、一般宴会の動きが前年に比べかなり悪い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の予約状況をみると4～5月は特に好調とは言えないが、実際の予約も考えられるので、前年と変わらない。
		都市型ホテル（副支配人）	・販売量はある程度確保できているが、客単価が上がってこないのが懸念材料である。
		競輪場（職員）	・入場者が横ばいであるため、景気は変わらない。
		理容室（経営者）	・例年であれば3月は好調に推移する月であるが、今年は前年を割る数字になりそうなので、今後も期待は出来ない。
		設計事務所（代表取締役）	・公共事業の発注が絞られているため、受注できる業者は限られており、ダンピングも横行している。民間の建設においては、住宅関連が、福岡県西方沖地震や耐震強度偽装問題等の影響から、マンションの購入に慎重になっている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・中心街は空洞化が進んでおり、今月はひなまつり等のイベントで人手が多いが、それが終わればまた少なくなる。また、秋には大型商業施設のオープンもあり、中心街はさらに厳しくなる。
		スーパー（経営者）	・量的緩和解除等による返済の不安や、価格帯の競争激化による単価の下落が予想され、厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の受注台数が増えない。
		一般レストラン（経営者）	・郊外の大型商業施設の状態が依然良く、売上も上がっており、なかなか町に客が戻ってこない。大型商業施設の影響がこの夏に更に出てくる。
		旅行代理店（業務担当）	・先行受注状況が前年比マイナスになっている。
		通信会社（業務担当）	・4月以降は携帯の需要も通常販売数に戻り厳しい状況が続く。夏場まで販売数は伸びない。
		テーマパーク（職員）	・春休みとゴールデンウィークを除いた4～6月の予約が少ない。
		設計事務所（所長）	・新規の物件が少なく、やや悪くなる。
	悪くなる	百貨店（営業担当）	・中心市街地への来街者数の減少は、今後ますます加速する。商店街においては閉店する店が今年に入り増えており、中心市街地の地盤沈下にますます拍車がかかる。
		スーパー（企画担当）	・4月には近隣に競合店が数店舗オープンする。その対策は実践するものの、ディスカウントタイプの競合店であるため、かなりの影響を受け、現状よりも苦戦を強いられることが危惧される。
企業 動向 関連	良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体の好調さにより、人手不足になっている。人材とスペースを持ったところには相当な受注増が見込まれる。これから3か月先、半年先には自動車の受注の流れが決定し、大変な繁忙期を迎えていく。
	やや良くなる	農林水産業（営業）	・取引先の取扱い数量が伸びる見込みがある。
		繊維工業（営業担当）	・消費が良くなり、国内工場の生産が多くなる。相変わらず短い期間での生産が多いので、そういう面でも国内の工場は多くなる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・数年計画での大型案件の受注など、取引先企業の投資状況をみていると、景気が上向き傾向である。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	・日銀の発表で金利も若干上がってくることもあり、底の景気が少し良くなってきた。
		鉄鋼業（経営者）	・当地区は需要自体は底堅いものがあり、大手・地場ゼネコンからの買いが5月から6月にかけて出てくる。

	建設業（総務担当）	・見積依頼が数件来ている。今後もこのような状況が続いていく。
	輸送業（従業員）	・周りの同業者の話を見ると、メーカーによっては荷動きが少し活発になってきているところもあるが、依然悪いところもある。よく売れる商品は伸びていき、売れない商品は下降傾向が続くという二極化が進む。
	金融業（営業担当）	・前年と比べて取引先、特に融資先の設備資金の需要が、相当数増えてきており、今後もそういった情報が金融機関に上がってくるため景気は良くなっていく。
	不動産業（従業員）	・商業施設での売上が順調に推移している。
	新聞社（広告）	・新聞広告では東京・大阪の調子が良いので波及してくる。
	広告代理店（従業員）	・今月のチラシ枚数は前年比101%の微増となった。業種別にはスーパーが前年比122%、薬品は前年比106.9%、マンション販売は前年比130.7%、娯楽は前年比106.1%と依然、小売業種を中心に好調を維持している。3月の北九州空港開港により地域の活性化が進めば折込チラシも枚数増の期待も持てる。
	その他サービス業〔物 品リース〕（役員）	・日銀の量的緩和解除がなされ、金利上昇が心配されるが、中小企業も若干景気の回復がみられるようになっており、設備投資意欲も上向きになってきている。
変わらない	農林水産業（経営者）	・需要はスーパー関連、居酒屋関連が順調に伸びているが、原料の確保は厳しく、工場の稼働率はかなり悪い。加えて原料不足による仕入れ価格の高騰が気になる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連で3月まではある程度設計変更の様子見という状況もあったが、4月からは新しい製品での動きも出てくる。それに付随する金型関係の精密機械部品も非常に動きが活発になってくる。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・景気動向は良いが、受注においては単価が安く、厳しい内容の仕事が多い。
	建設業（従業員）	・依然として建設業界は、公共工事の減少により大変厳しい状態が続いている。特に土木工事は、公共工事が100%を占めているため競合業者も多数あり、なかなか受注に結びつかない。また、原油の高騰で材料費等の値上がりも景気が悪い要因になっている。
	通信業（経理担当）	・日銀が量的緩和政策の解除を打ち出したが、それに伴って長期の金利等も上昇する傾向が見受けられる。地方においてはまだまだデフレ脱却というには程遠く、ゼロ金利政策をこのまま続けてもらいたい。その中でも製造業は原材料費がアップしており、それを製品価格に転嫁できないということで、まだまだ暗い状況が続いている。
やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・従来、受注量は2、3月あたりが一番多く、先に行くほど季節的要因もあり、少なくなってくる。今後、LPガスの高騰がかなり響くのではないかと心配である。
	一般機械器具製造業（経営者）	・3月の新規受注が少ない。現在、受注残で何とかやりくりしているが取引先の期末でもあり、期待はできず、やや悪くなる。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・大手自動車メーカーの生産台数の減少により、受注も減少し、やや悪くなる。
	輸送業（従業員）	・軽油価格の高騰になかなか歯止めがかからず、運賃値上げ交渉も進展せず、厳しい状況が続いている。
	輸送業（総務担当）	・衣料品関係の荷動きが年々減少している。今年も生産計画は昨年の半分と聞いている。
	悪くなる	
	良くなる	
雇用 関連	やや良くなる	
	人材派遣会社（社員）	・昨年、一昨年と比較して派遣の年度末、期間満了の契約更新の交渉がスムーズにいったいる。また、価格交渉は困難な部分もあるが、それぞれの企業の雇用意欲が高まっている。
	求人情報誌製作会社（経営者）	・4月1日より長崎さるく博という、日本で初めてののまち歩き博覧会が実施される。春休みに入り県外からの集客が期待できる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求職フェアなどの入場者は例年になく伸びており「売り手市場」になっていることは間違いない。団塊の世代のおう盛な消費力を見ると、マイナス材料は少ない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・空港特需でしばらくは好調に推移する。
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は昨年の12月以降、0.8倍台の水準を維持している。この傾向が今後も続く。
	職業安定所（職員）	・求人意欲の高まりが感じられる。

	職業安定所（職員）	・非正規社員の求人ニーズが全体を押し上げており、見かけほど雇用環境が改善しているわけではないが、新卒採用や正社員の中途採用に積極的な企業の動きがある。
	民間職業紹介機関（支店長）	・雇用情勢の改善により、人材不足の状況が当分続く。一方価格交渉では、顧客の姿勢は依然として厳しいものがある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・雇用数の動きは、春先になって新卒確保によりキャリア採用が控えられている現状もある。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-